

『映画に描かれた疾患とペースス』 ——安東教授のシネマ回診2』

●著者／安東由喜雄

●定価 本体 1,900 円＋税 ●四六判 240 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月 2020 年 2 月 ●ISBN 978-4-263-73193-2



センスのよい語彙が小気味よく躍動するエッセイ

安東由喜雄先生は長崎国際大学学長，世界アミロイドーシス学会理事長を務められ世界のアカデミアで活躍されている研究者である。しかも，熊本大学在任中から 20 年近く休むことなく『月刊メディカルクォール』誌に映画コラムを連載されている稀代のエッセイストでもある。そのエッセイを書籍化したのがこの『シネマ回診』シリーズである。前作 2018 年刊行の『映画に描かれた疾患と暮る想い』が，最新作では『映画に描かれた疾患とペースス』に深化した。医師として，そして研究者としての先生の哲学からくる前作の『暮る想い』は，人の進化の中で遺伝子に刷り込まれ，継承されてきた遺伝情報とでもいう“愛”への想いであった。今回はその“愛”が持つ強い哀愁と情熱を“ペースス”という形で表現された。

ホモサピエンスが持つ仲間への共感とそこに生じる排他という争いの原点を扱った『女は二度決断する』，思い出という名の未練を集めた『コーヒーが冷めないうちに』などにみられるようなテンポのよいカット割りを生かした文章が並べられている。映画の時代背景，ストーリー，関連する疾患の解説，さらに社会への影響などが段落ごとに簡潔に述べられ，味のあるコメントで締め括られている。一方，カメラを長回ししたような全編ワンカットのテーマも散見される。近未来の出来事へ読者を引きずり込む AI との恋愛を描いた『her/世界でひとつの彼女』，あるいはご自身の座右の銘である「チャレンジして失敗を恐れるよりも，何もしないでいることを恐れよ」を結論とする『パッドマン 5 億人の女性を救った男』など，ワクワクさせてくれる文章になっている。もちろん，『8 年越しの花嫁 奇跡の実話』のような高度に専門的な抗 NMDA 受容体脳炎を扱いながら静かな感動を誘い出す映画にも触れている。

人は 60 歳も過ぎると記憶力，体力などことごとく低下してくるが，唯一向上してくるのがボキャブラリーだという。安東先生も作家・宮本輝氏の「多くの作品の中で最も読み応えのあるものは，70 代に書かれたものである」を引用されている。ご先祖が大分県，臼杵稻葉藩の祐筆であったというから，先生のエッセイでセンスのよい語彙が小気味よく躍動しているのは天性であろう。これから 70 代に向かい，先生の豊富な経験と醸成された深い思考によってこのシリーズはますますペーススの効いた作品に育っていくと確信している。

(宮嶋裕明／浜松医科大学内科学第一講座)